

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200529		
法人名	社会福祉法人 唐津市社会福祉協議会		
事業所名	唐津市社会福祉協議会認知症対応型共同生活介護事業所きりご		
所在地	佐賀県唐津市肥前町切木548番地1		
自己評価作成日	令和2年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年2月20日	外部評価確定日	令和2年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔あふれる楽しい我が家」を理念とし、本当の家のような親しみと安心を感じながら生活できる施設にしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホームきりご」は周りに民家や田畑が広がる閑静な地域に建つ事業所である。四季折々の田園風景は地域で生活されて来た入居者にとって昔懐かしい風景が見られ心安らぐ環境だと推測できる。地域に根差した施設を目指している。今後地域の集会や行事、清掃等に管理者又グループホーム職員が積極的に参加する事で施設の情報発信も出来ると考えられる。理念である「笑顔あふれる楽しい我が家」を毎日利用者と共に唱和する事で共通認識を持ち大きな家族の一員として地域で生活出来る様支援されている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれる楽しい我が家」を毎食前に利用者、職員全員で唱和し、関わりのある中で、その日の雰囲気も含め皆で共有することを毎日大切にしながら実践している。	平成29年4月に全職員で理念の再検討を行い、「利用者が家庭的な環境の中で笑顔で過ごせる生活を支援する事」が全職員の理想とする思いから現在の「笑顔あふれる楽しい我が家」へ変更されている。理念は様々な場所に掲示してあり利用者、職員で毎日唱和する事で理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、クリスマス会、他施設への運動会参加、地域の美容室利用、地域の電気屋さん利用、散歩時の声掛けあいさつなど交流は図れている。	地区の集会、清掃等に参加した事はないが徐々に地域に周知出来ており散策の途中には地域住民から声かけがあったり、施設へ立ち寄り玄関先で立ち話をされたり交流の機会が出来ている。地区の小学校より行事の招待をされていたが今年は感染症の問題等で参加出来なかった為今後も機会があれば交流を図って行く予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの小学校の児童作成の大きなメッセージ付きのハガキを先生方より頂きました。子供たちへの高齢者を労わる気持ちを育むよい機会になったのではと思います。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員さんの厚意で鳴門部屋の力士の方に訪問して頂いた。質の高い体験になったのではと感じています。	11名の運営推進委員は地区の各役員代表や市町村、家族代表から構成され2か月に1回実施されている。グループホームからの状況報告や地域からの行事案内等情報交換の場にもなっている。全家族が情報共有出来る様議事録は玄関に掲示されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜必要時には連絡を取っている。特に運営推進会議で役員構成に市の担当者がおられるので実情などは詳しく報告している。	運営推進会議に行政担当者の参加があり、顔見知りの為相談しやすい関係が出来ている。施設、地区の実情等詳しく報告し相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の身体的拘束適正化委員会にて自分たちの支援の在り方、意識改革を行っている。職員全員で話し合うことで相互理解にもつながっている。	管理者が外部研修に参加後、職員勉強会で全職員へ資料を配布し身体拘束の弊害等周知している。管理者は日頃から言葉の拘束等も気がけており職員の不適切な言葉かけ等に気付いた場合は注意出来る関係性を持ち職員の意識改革にも気を付け身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護、虐待防止研修など参加し理解を深め、施設にて共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護と虐待防止研修を管理者が参加することができている。その内容は報告会で報告し各自理解を深めるよう周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書及び重要事項説明書の説明により、理解していただけのように丁寧に説明するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入って右側に「ご意見箱」を設置している。また面会時には出来るだけ家族様のお話を聞けるように時間をつくる配慮している。なるべく施設に訪問し、相談などしやすいように笑顔で対応することを心がけている。聞き取れた内容で必要があれば職員へ周知し配慮できるようにしている。	ご家族の面会時は状況報告等行い話しやすい雰囲気になる様心がけている。何気ない日頃の会話から意向や思いをくみ取る事が出来る様コミュニケーションに努めている。些細な内容でも家族の思いを汲み確認後可能な範囲であれば実施している。ご意見箱を設置しているが投稿された事はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、管理者会議などで定期的に検討できる機会をも置けている。また、「勤務評定表」にて職員の意見が反映できるようにしている。	管理者は日頃から職員との会話を多く持つよう努めている。個人面談等は行っていないが本部より代表者、課長他数名が毎月各事業所を訪問し状況確認や職員からの訴えを聞く機会を設けている。毎月の勉強会では職員より意見等あれば全員で検討し何でも言える環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産前産後休暇を取得している職員もいる。やりがいにつながるように、「楽しい」と思えるような雰囲気づくりには毎日努めている。継続して安心して働ける職場環境を目指し取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「勤務成績評定表」等にて職員の気持ち力量を確認し、研修計画に基づき計画的に研修ができるように機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム連絡会」にて勉強や交流会に参加するようにしている。唐津市社会福祉協議会の介護施設、保育施設職員合同の研修会があり参加し交流することができた。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「フェイスシート」及び「退院・退所情報記録書」の活用や入所判定会議の情報を全職員に周知し、ご本人様の不安が少しでもなくなるよう可能な限りの範囲で要望に応じるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談及び入所申込時等に不安な事や要望に応じるために聞き取り、傾聴をしている。なるべく話しやすい雰囲気になるよう笑顔での接客を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設として支援可能な事、支援困難と思われることは説明をその都度行うようにしている。その中で家族様の意見も尊重できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来ることは自分でする」を実践し、職員は一部介助を心掛けている。洗濯物を畳んだり掛けたり洋服を着たり見守りの中自由にされている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人様と家族様の話された内容なども家族様から聞いてみることもあり、施設と家族様で会話の内容も違いますのでいろいろな部分を見れるように見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室の利用の支援やご家族様、友人様の面会を通し良好な関係の支援行っているが、限られた利用者に偏りがあり不十分な面あり。	入居前から利用している近所の美容室へ付き添いを行っている。自分で支払いを希望される利用者には個人預り金から利用料金を持ちし自分で支払いが出来る様支援している。道路を挟んだ施設向かいの商店にも少額を持ちし買い物に行く利用者もある。今後は全利用者の意向を確認しこれまでの馴染みの人や場所の関係が途切れない様支援していく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性などに配慮し適度な距離を大切にしている。出来る限り自由に意向の尊重をすることを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了して1年程度して亡くなった方の報告を受け感謝の言葉を頂いた。その後すぐその方の思い出の詰まった写真集をつくりその方のご家族様に渡したという事があった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常日頃、利用者様から聞き取りの中でなるべく意向をくみ取るように支援している。把握が困難な方へはご家族様のご意向や医師の意見等も参考になっている。	担当職員が決められているが職員全員で日頃の支援時の何気ない言葉から本人の意向や思いを確認する様気にかけている。買い物の際自分で支払いを希望される利用者には個人預り金から少額を持ち、店主と交流しながら支払いもしてもらっている。把握が困難な利用者には家族への聞き取りや、本人の意向を汲み取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「フェイスシート」等の入所時の情報や本人様との会話、面会時のご家族様からの情報により把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者様の一人ひとりの心身状況を観察し、状態の変化等は申し送りなどで、職員間で共有している。また、必要に応じて主治医に情報を伝え指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時は、本人様、職員との面談を行っている。また、必要に応じて主治医からの意見を受け、ご家族様に連絡、要望等の確認を行い、介護計画に作成に取り組んでいる。	介護支援専門員は週2日勤務の為日頃の状況は記録や職員より聞き取り、本人・家族の意向を確認しケアプランを作成している。介護支援専門員は毎月モニタリングを行い6か月又は必要時ケアプラン内容の変更・更新作成を行い現状に即した介護計画を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員が毎月評価する「介護サービス計画書評価表」を確認して、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分たちが出来る範囲のことはなんで取り組んでいきたいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後も運営推進会議の情報、意見等を上手に活用しよりよい支援を目指したい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や緊急時対応など、協力医療機関へ電話相談を行い連携を図っている。また、主治医の指示により他科受診が必要な場合には、紹介状を持参して適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に協力医の説明を行っている。協力医は2週に1回往診があり利用者の健康状態の把握を行っている。体調悪化時・緊急時は主治医へ連絡指示を仰いでいる。他科受診が必要な場合も施設職員が付き添い受診後は家族へ内容報告を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度は週に一回木曜日に他事業所より応援で出勤して頂いた。かかりつけに病院の看護師、医師と密に連絡を取れている状態ではある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には「入院時情報提供書」「救カード」の活用、担当看護職員及びソーシャルワーカーとの情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要時に応じて「急変時及び終末期における医療や介護における指針」が出来ていない為、今後指針の作成に取り組むたい。	看護体制加算は算定していないが、准看護師が定期的に勤務しており健康状態の把握を行っている。出来る限り施設生活を継続できる様支援しているが医療度が高く重度化した場合は主治医の指示により医療施設との連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が定期的に行えていないため、今後は定期的に訓練を行いたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しての訓練は9月、3月には地域の方の協力を受けて訓練を実施する予定。地震、災害については実施できていないので今後検討必要。	消防署、地域消防団、運営推進委員、職員参加により年2回、日中に夜間想定訓練を行っている。地域消防団に施設の見取図を提出し施設の状況を把握して頂く予定。職員は消火器の取り扱い訓練を実施、災害に備えて飲料水が準備されている。今後食品の備蓄や緊急連絡網による連絡訓練等実施予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちでと利用書様を中心に考えられるよう精進している。	個人情報の取り扱いは入居契約時十分な説明を行っている。グループホームたよりに使用する写真等について本人家族に了承を得、署名捺印を受けている。一人一人の人格を尊重し排泄時や入浴時の声かけ等には特に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときなどは、利用者の思いも確認し希望や自己決定を尊重し支援できるように心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は概ね決まってはいるが臨機応変に対応することを心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類交換は本人が着たいと思う洋服を着て頂いている。あきらかに寒い、暑いと思われる場合にのみ説明し、増やしたり減らしたり一部を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜については外注(昼食・夕食)で、施設職員が利用者様一人ひとりに応じた食事形態で提供している。朝食と日祝日については、施設職員が調達しているので、食べたい物を聞いたり、調理の下準備(野菜を切る)や、食事をつぎわけてもらったりして、利用者様に出来る事はして頂いている。	昼食・夕食は外注、事業所の管理栄養士が作成したメニューで作られ職員が受け取り提供している。食事形態の情報は外注事業所へ伝えられ、ミキサー食の対応も行っている。嚥下状態が不安な利用者もいるが見守り・声かけにより全員箸使用で安全に自力摂取されている。朝食、日祝日は利用者に希望を聞きながら一緒に食事の準備を行い食事が楽しみになる様支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注により栄養バランス、摂取量共に一人ひとりに応じた食事提供出来ている。水分摂取については、声掛けしながら十分に摂取できるよう心掛けている。お茶だけではなく、他の飲み物を提供したりして、飲み残しのないように行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを利用者の能力に応じて行っています。また、入れ歯使用の方については、入れ歯洗浄剤を活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間紙オムツ利用者については、排泄パターンを把握し、定時間での声掛け誘導を行い、トイレでの排泄ができるようにしている。	リハビリパンツ利用者7名、布パンツ利用者2名、排泄チェック表にて排泄間隔の把握に努めトイレ介助を行っている。自力排泄可能な方でも安全に排泄出来る様遠目の見守りを行っている。パットは業者が納品し本人の預かり金で支払っている。(高い方で1万円弱)転倒のリスクがある方3名には足元センサー使用中。夜間もトイレ介助を行いパット使用量の削減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを提供したり、こまめな水分摂取の声掛けや、飲み物の工夫などを行い対応している。毎日の体操や定期的な散歩なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には曜日や時間帯などを決めていますが、その時の利用者の体調や気持ちに応じるように対応している。	入浴予定表は作成してあるが嫌がられる事もあり時間をおいて声かけする等本人の希望に沿って週2回入浴支援が出来る。入浴時は体調・皮膚の状態観察等行い、洗身出来る利用者には洗身してもらう等残存機能を活かした支援を行っている。浴室にはリフトが設置してあり下肢筋力低下が顕著な利用者にも安全に入浴できる様準備してある。(今まで未使用)	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの状況や体調などに応じて支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な往診や利用者様の状態を主治医に報告し、指示のもとに処方された処方薬を説明書にて目的や用法、用量を再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内に小さなお花畑を作っており、水まきや毎日の洗濯物干し、外で体操、歌、風船バレー、ひなたぼっこなどを行い気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は少ないが、天気の良い時には散歩に出かけたり、季節の花が咲いた時にはドライブに出かけたり、家族様が数時間家に連れて帰られることもある。	天候を見ながら近所を散策する等気分転換を図っている。正月に2泊で自宅に帰られた利用者があり本人・家族ともに喜ばれたり、初詣に利用者3名の方が出かけ喜ばれたとの事である。全員参加の為車の手配等の工夫を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の利用者様が少額を所持されており、理容室代を払ったり、使えるように支援している。また家族様より預かっている少額のお金により臨機応変に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話されることはないが、電話をしてほしいとの要望があれば電話をかけ取り次いだりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、利用者様はリビングや椅子、ソファーなどに座り自分のペースで休憩したりテレビを鑑賞されたりしながら思いおもいの時間を過ごされている。季節感が分かりやすいように壁に飾りつけなど行い工夫をしている。	ホールにはお雛様の壁飾りがあり季節が感じられる様工夫している。ホールは明るく昼食後はソファーに座り職員とのコミュニケーションや自室でお昼寝される等思い思いの場所でくつろがれている。感染対策の為水を張ったバケツに新聞紙を丸めて入れ加湿する事で乾燥予防を行い心地よく過ごせる様工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広くはないが、自分の場所として過ごす場所は各個人で持たれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット及びチェストは施設施設で設置しているが、他の者については使い慣れた私物を使用されている。ご家族の写真を貼ったりして、居心地よく過ごしていただけるようにしている。	居室には備え付けのクローゼットがあり、季節毎に衣類が整理され掃除も行き届きすっきりと片付いている。寝具類の持ち込みがあり、シーツ、布団カバー類は定期的に洗濯され清潔に過ごす事が出来る様支援されている。居室には家族の写真が飾られ自室と認識される様工夫されている。夫婦利用希望にも対応できる様居室中間ドア部分を開錠する事により2室がつながる様設計されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今後も生活環境には十分配慮し臨機応変に整備を行っていきたいと考えています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない